成果概要報告書：電子書籍版「小学校社会科副読本」活用の実践的調査研究事業

令和2年度事業
北広島市（北海道）

課題

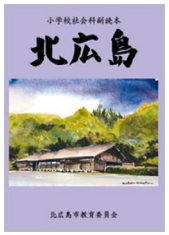
整備が進むICT環境や地域の図書館や博物館などの力を借り、資料や情報探索のゲイトウェイとなることで、学校図書館の情報センターとしての機能や有用性を知らしめていく取り組みが必要。

事業のねらい

社会科副読本の内容を補完する資料や情報を学校図書館の蔵書のみに頼らず、ＷＥＢ上のオープンデータや、図書館員や学芸員が作成する情報源などを簡単に取り込めるようにする電子版を作成、提供し、知識や手法のナレッジ化に地域全体で力を合わせ、取り組む。

取組実施地域・学校の指定

推進地域：北広島市（北海道）
推進協力校：北広島市立大曲小学校・北広島市立緑ヶ丘小学校



実施内容

①電子書籍版「小学校社会科副読本・北広島」教材作成ツール研修会の実施

電子版副読本および教材作成ツールの操作マニュアルを作成し、マニュアルに基づいた研修会、実技講習会を実施する。対象は、副読本編纂委員、小学校３・４年生担当教員、図書館員、約80名。

②電子書籍版「小学校社会科副読本・北広島」を活用した公開モデル授業の実施

推進協力校２校に、電子書籍版副読本を活用した公開モデル授業を依頼。今後の活用の参考事例とする。

③電子書籍版「小学校社会科副読本・北広島」の活用に役立つ図書・情報リスト作成

図書館・学校司書が中心となり、活用が見込まれる単元での図書リストを作成し、副読本とリンクさせる。

④電子書籍版「小学校社会科副読本・北広島」の活用に対する報告書の作成と配布

成果

①研修会の開催（参加60名）

緑ヶ丘小学校教員研修会の様子

図書館および市内各小学校で、実技指導講習会等を開催、市内３・４年生担当教員および図書館司書・学校司書が参加。

②公開モデル授業開催と収録２例

大曲小学校３年生「第４章 わたしたちの市のあゆみ」

緑ヶ丘小学校４年生「第９章 昔から今へと続くまちづくり」

③図書・情報リスト作成

学校図書館・図書館等による情報資源提供を実施。
目標：１２０件
実績：　８０件

④報告書作成・配布(100部)

「学校図書館の振興に向けた調査研究」委託事業

令和2年度事業
（北海道紋別市）

課題

〇分類ごとの偏りが著しく、図書標準が未達成である。
〇学校図書館のスペースが狭く、メディアセンターとしての一貫した情報活用教育が困難。
〇学校司書が配置されておらず、司書教諭は担任業務との兼務。
〇開館時間が限られ、貸出冊数の個人差が大きい。

事業のねらい

学校図書館の整備・利活用を進め、学校図書館長-司書教諭-学校司書-ボランティアの業務分担、心の居場所としての空間デザイン等を行い、本市における学校図書館整備の在り方や活用法の研究・普及を図る。

紋別市立南丘小学校

住所 紋別市南が丘町７丁目４４番４２号
電話番号　0158-24-3487
過去実績　文部科学省
「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究事業」
取組開発型（平成30年度）
取組拡充型（令和元年度）

実施内容

①情報活用に関する指導の体系化

・情報活用教育に関する年間指導計画の作成
・学校図書館経営計画に基づいた授業における学校図書館の利用促進
・学習に必要な資料の収集

学校司書による図書館利用のオリエンテーション

②学校司書の常駐化

・学校司書を常駐させ、児童の在校時間中の開館時間を大幅に拡大、読書活動の一層の推進
・新しい年間指導計画を踏まえたパスファインダーの作成
資料の収集整理
・レファレンスの実施による学習支援
・近隣校・市立図書館との資料の相互賃貸に関する実務
・学校図書館見学会の実施 保護者・地域向けの説明会・支援要請
・児童会と連携した学校図書館関連企画の実施 図書館祭り、校内放送での本や新聞の活用

学校図書館見学会で学校図書館の機能を説明する学校司書

③コミュニティスクールの導入による学校図書館支援

・学校図書館のスペース拡大。
・地元建設会社の指導に基づく農園活動の実施、その売上金による資料の充実。
・地元バス会社との共催による読書感想画コンクール「走る作品展」の実施、読書の動機付け。
・隣接高校総合ビジネス科課題研究として「読書通帳」デザイン依頼。

農園活動で購入した図書

成果

〇学校図書館の利用の増加

・授業における学校図書館の利用の増加。
・児童の読書量の増加。

	図書館活用授業数	図書貸出数
2019年度	82回	3,240冊
2020年度	202回	4,898冊

〇言語能力の向上

・全国水準の学力を維持。
・授業の質が向上（主体的・対話的で深い学びの実現）
・児童同士の相互理解の促進。

地元バス会社との共催による読書感想画コンクール「走る作品展」出展作品。コンクールを実施することにより、読書への動機付けとなり、読書量が増えることで、低学年の言語能力の向上に繋がっている。

〇働き方改革の推進

・学校司書による資料収集により、教員の超過勤務削減。

授業に合わせて学校司書が資料となりそうな図書を選本。学校図書館にコーナーを作り、調べ学習が効率よく進められるように工夫している。

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

令和2年度事業
（取手市教育委員会）

課題

①茨城県内初の学校図書館－市立図書館連携システム（サービス名称「ほんくる」）が、導入３年を経過したが、活用促進が進まない。

②学校や家庭の状況によって、児童生徒の読書率に差が見られ、市全体として停滞傾向にある。

事業のねらい

①学校図書館－市立図書館連携システム「ほんくる」の利用促進、活性化をはかる。

②すべての児童生徒が、魅力的な本との出会いをするための読書率の向上をはかる。

取組実施地域・学校の指定

〇取手市立全小学校　１４校
〇取手市立全中学校　６校
〇取手市立図書館　２館
・取手図書館・ふじしろ図書館

実施内容

①心からみんなにすすめたい一冊の本推進事業

・校内大会

・一人一人が心からすすめたい一冊を選書し「心からおすすめカード」を作成
・それをもとに校内大会を開き学年代表本を決定
・代表本は図書館HPに掲載

②「ほんくる」活用促進プログラム

＜児童生徒対象＞
・「ほんくる」の仕組や使い方について学習および貸し出し体験
＜司書対象＞
・ZOOMオンライン研修会の開催
講師：福岡　淳子　先生
「読む力を育てるために」

③中学生「心からビブリオバトル大会」

・コロナ禍のため，動画撮影による大会を実施

・図書館ホームページで動画を公開。市民の方も視聴

・審査員には、取手市長も参加。優勝者は「市長賞」として市長から直接賞状を授与

成果

〇貸し出し数の増加

・自校や他校の児童生徒がすすめる本に興味が高まり，小・中とも貸し出し数が増加した。

〇選書の幅の広がり

・これまでに読んだことがないジャンルに興味を示し，選書の幅を広げた児童生徒が増えた。

〇「ほんくる」利用数の増加

・「『ほんくる』活用促進プログラム」の実施や，各学校代表本を市立図書館ホームページから予約できるシステムにしたことにより，「ほんくる」の利用数が増加した。

学校代表賞　副賞
図書館ゴールドカード

〇学校図書貸し出し冊数【単位：冊】

	小学校	中学校
R1	104，878	12，095
R2	116，239	16，986
比	+11，361	+4，891

「学校図書館の進行に向けた調査研究」委託事業

令和2年度事業
（我孫子市教育委員会）

課題

○地域人材を活用した学校図書館の整備と資料収集

○計画的かつ継続的な、学習での学校図書館の活用

事業のねらい

○ 「ふさカリキュラム（地域学習」学習での学校図書館の活用と、参考とする資料の収集を通して「学習センター」「情報センター」機能を充実させること

取組実施地域・学校の指定

我孫子市立布佐中学校

昭和22年発足
創立74年目
9学級　生徒数210名
平成26年4月より我孫子市教育重点施策の小中一貫教育モデル校

実施内容

①地域を軸とした学校図書館整備活動

図書室ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱによる環境整備により、温もりのある学校図書館となっている。「ふさｶﾘｷｭﾗﾑ」ｺｰﾅｰを設置し、地域学習に活用できる資料の収集を始めた。

②新型コロナウイルス感染症対策を講じた学校図書館運営

臨時休校後、7/3より開館
〈布佐中学校の感染症対策〉
①常時換気②手洗いの徹底③利用人数の制限④座席配置の工夫⑤返却本の別置き⑥閉館後の消毒

③「ふさカリキュラム」学習での図書活用の推進

収集した資料（書籍・パンフレット等）を参考に、ゼミ学習を行い、レポートにまとめた。

学習の成果を我孫子地区公民館でポスター発表した。

成果・課題

○学校図書館の「学習センター」「情報センター」機能の充実

学校図書館に「ふさカリキュラム」コーナーを設置。布佐アーカイブスの会と共に資料収集を進める。収集基準について検討した。

○「ふさカリキュラム」学習の発展

生徒の活用の様子から資料の収集基準を設定→使える資料に!

生徒の学習の成果物も保存し、次の資料に！

○地域資料の保存

	図書	ｱｰｶｲﾌﾞｽ
2020年度	224点	70点

学習用とそれ以外を見分け、保管場所を分ける。

「学校図書館の振興に向けた調査研究」委託事業

令和2年度事業
市川市教育委員会

課題

〇学校図書館に係る教職員の指導力の向上
〇読解力向上に向けた授業改善
～学校図書館の効果的な活用～

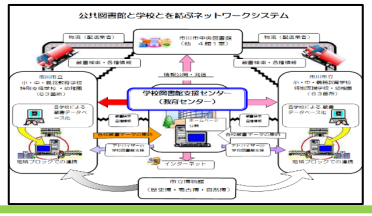
事業のねらい

〇推進協力校の実践を市内へ拡げることで、学校図書館活用への意識を高めるとともに教職員の指導力の向上をめざす。
〇「情報活用能力育成に向けた学び方体系表」を作成して、授業改善につなげる。

取組実施地域・学校の指定

市川市教育委員会：学校図書館支援センター
推進協力校：市川市立第七中学校

・2006年より学校図書館支援センター事業開始
・公共図書館と市内すべての学校図書館が教員一人一人の授業を支える体制が整っている。
・市内全校に学校司書配置



実施内容

①推進協力校による授業公開

3密を避けながら、学校図書館で調べ学習を行った。学校体制、学び方のプロセスや情報カード等の環境整備がされているので、今年度も学校図書館を活用した授業を継続することができ、市内に実践を紹介することができた。　授業を参観することが難しい教職員も多いので、「学校図書館支援センター通信」を通して紹介をした。

②学校図書館訪問より

各学校の実態に応じた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、学校図書館運営を行った。
３密を避けるための様々な工夫が見られ、読書教育の推進を図ることができた。

③教職経験４年目教員対象「学校図書館実態調査」

【実態調査内容】
①今年度、学校図書館を活用した授業を行いましたか。
行った・行う予定　84．5%
②来年度、学校図書館を活用した授業を行う予定ですか。
行う予定である　62．2%
③学校図書館を授業で活用する上で課題となっていることは何ですか。

研修会を行うことができなかったが、84.5%の教員が、今年度も学校図書館を活用した授業を行っている。昨年度まで行ってきた教職経験4年目教員対象の学校図書館活用研修会がよい影響を与えていると考えられる。来年度は、課題についても研修会等で考えていく。

【4年目教員が直面している主な課題】
・授業時間数の確保　約53%　　・選書について　約38%
・学校司書との打ち合わせ　20%　　・活用方法がわからない約7%
・担当している教科での活用　約13%

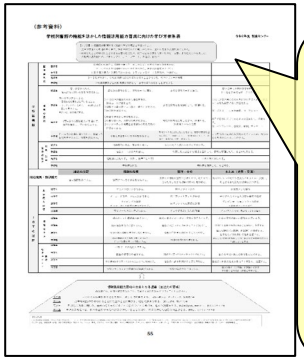
成果

〇推進協力校教員の意識の変化

【実態調査より】
〇必要な資料を、自分で判断して収集させている
1回目60%　2回目69%
〇資料がたくさんあっても要点を整理しまとめることができるようにさせている
1回目57%　2回目78%
〇生徒が図書資料から得た情報をもとに、自分の考えをまとめる授業を行っている。
1回目72%　2回目78%

実際に学校図書館を活用した授業を行うことで、学校図書館を活用した授業づくりに対する教職員一人一人の意識に変化があらわれたと考えられる。実践を継続していくことが大切である。

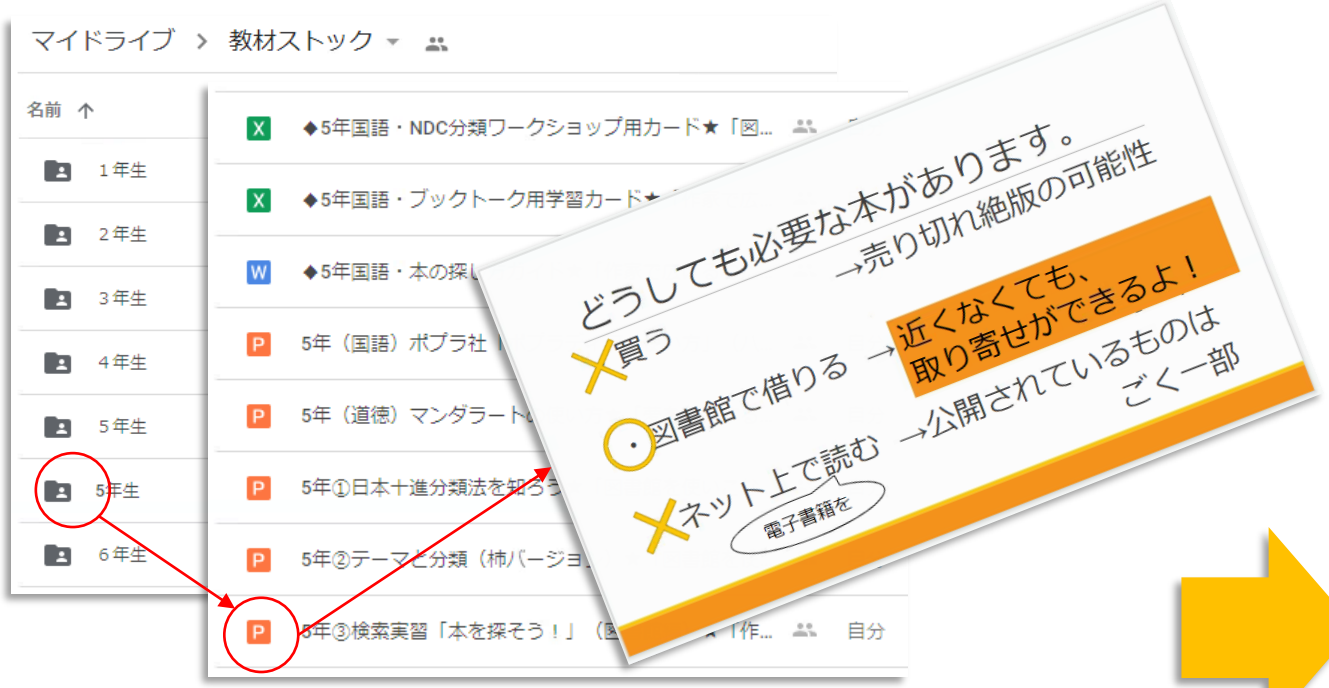
〇「学校図書館の機能を活かした情報活用能力育成に向けた学び方体系表」の作成



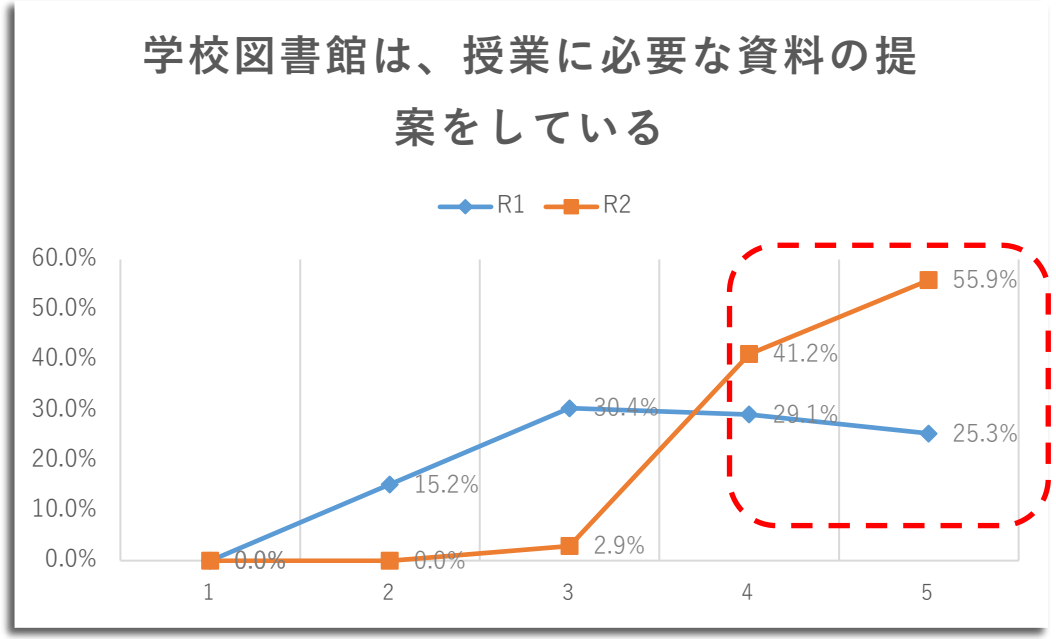
指導主事が中心となり作成を行った。「学び方体系表」にまとめていくことで、改めて情報活用能力育成のために必要なことを整理することができた。

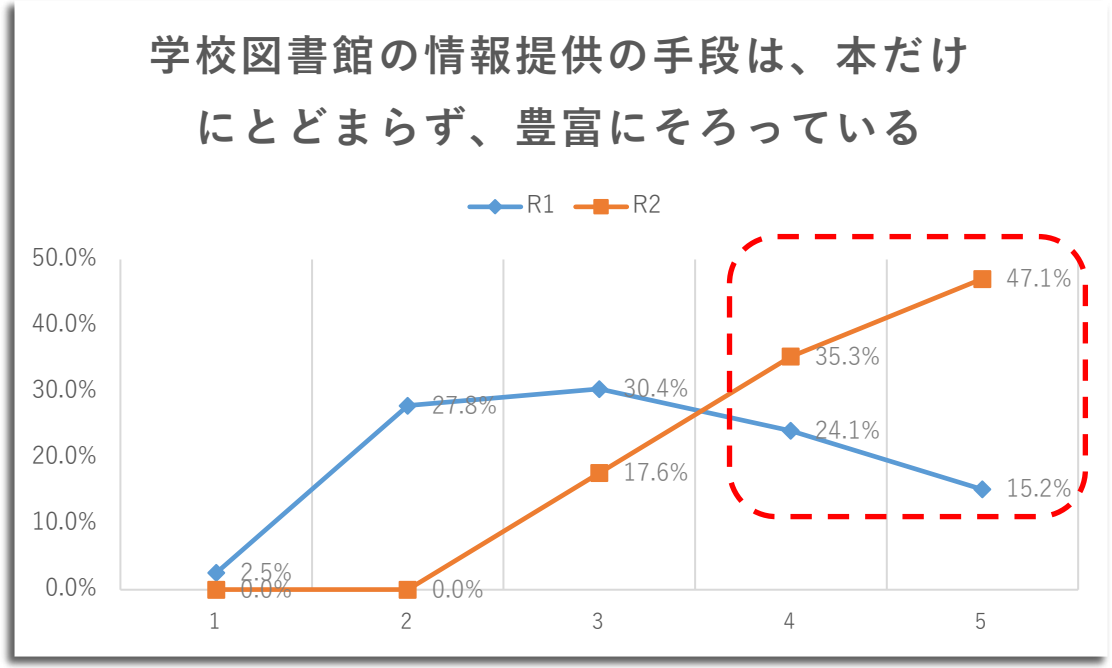
学校図書館活用時間数	
2019年度	40,664時間
2020年度	30374時間 （3月9日現在）

高森町「子ども読書支援センター」事業



（取組の一例）
学校の教職員と協議しながら、
学校の授業と学校図書館の連携を深めるため、
教材を開発し整理。





（その成果）
R1年度末、R2年度末に学校教職員に
同じアンケートを実施。
4,5の項目の合計を比較したところ、40%以上、割合が上昇。
学校図書館の「情報センター機能」、
「学習センター機能」が向上したことが伺える。

「学校図書館の振興に向けた調査研究」委託事業【近江八幡市立　北里小学校】

令和2年度委託事業

課題

〇学校図書館を活用した授業の単元構想を系統的・計画的に行えていない。

〇読書意欲や情報活用能力の個人差が大きい。

〇自分の課題を見つけ課題解決に向けて自分で考える学習活動が行えていない。

事業のねらい

〇必要な情報を取捨選択して、自分の考えを広げたり深めたりするために活用し、自分の課題を解決する活動を取り入れる。

〇学習・情報センターとしての図書館利活用モデルを作成し、系統的計画的に情報活用能力を育成する。

〇読書センターとしての学校図書館の利活用を推進し、読書意欲を高める。

実施内容

①校区小中学校の連携

校区小中学校で課題を共有し、小学校で学んだことを踏まえて中学校の授業を構想するための情報交換と協議を行う。

②学習・情報センターとしての利活用

ア　学習･情報センターとしての系統的 利活用モデルの作成
イ　学習成果物の学校図書館での掲示

③読書センターとしての利活用

ア　市立図書館から毎月100冊借用し学級に常備
イ　図書館のパーテーション設置
ウ　学年部ごとにおすすめの本リスト作成･配布
エ　学習内容に合わせて学校図書館でおすすめ の本コーナーを設置
オ　読書貯金の取り組み
カ　図書室だよりの発行
キ　全教室学級文庫の整理

成果

〇系統的な情報活用能力の育成

学校図書館利活用モデルを標準としながら、各学年で情報活用能力の系統的な育成に取り組むことができた。

県確認テスト 情報選択･活用問題正答率

R1		R2
5年時66.7%	⇒	6年生78.4%
4年時51.9%	⇒	5年生64%

〇学校図書館の活用

各取り組みにより、課題解決に向けて情報センターとして図書館を活用する児童が増えてきた。

また、読書センターとしての図書館利用の取り組みを推進し、「読書が嫌い」という児童が減少した。

児童アンケートより

	休み時間に調べ物で図書館を利用した	読書が嫌い
事前	31%	5%
事後	38%	2%

「学校図書館の振興に向けた調査研究」委託事業【近江八幡市立八幡西中学校】

令和2年度委託事業

課題

〇教師主導の活動が多く、生徒は課題に対して自ら解決する力がついていない。

〇教師は学校図書館の機能や学校司書と協働した授業づくりが進んでいない。

〇朝読書の取り組みはしているが、生徒が主体的に読書活動に取り組む状況に至っていない。

事業のねらい

〇校区内の小中連携を図り、授業の実践交流を通して、情報交換や指導案の検討をするなど、系統的な指導の計画を立てて実践を行う。

〇図書資料の活用を通して、情報活用能力の育成を図る。

〇学校図書館の機能と学校司書を有効に活用した教員の授業構成力の向上を図る。

取組実施地域・学校の指定

滋賀県近江八幡市立八幡西中学校

実施内容

①校区小中学校の連携

校区小中学校で課題を共有し、小学校で学んだことを踏まえて中学校の授業を構想するための情報交換と協議を行う。

②主体的な読書活動へのいざない

地域人材を活用して、教科単元に関係したテーマでのブックトークによって、主体的な読書活動へいざなう。

③各教科における年間計画への位置づけ

学校図書館の機能を活用した授業を各教科の年間計画に位置付ける教科部会を開く。

④教員の授業構成力と生徒の課題解決力の向上

国語科の授業を通して、学校図書館の機能と学校司書を活用した授業を実践し、事後研究会で振り返りを行う。

成果

〇教職員の学校図書館の利活用についての意識の向上

各教科で学校図書館の機能を活用した授業を位置付けたことと、国語科を通して授業を実践したことにより、各教職員の意識が変わり授業改善が進んだ。

〇学校司書の活用と協働の取組

各教科で授業を構想する段階でどのような資料が必要か、学校司書と協働で授業づくりを行うことで、生徒に学習のための豊富な情報を提供できた。

〇生徒が自ら課題解決に取り組む

国語科の授業実践では、生徒が自ら課題を決め、そのための資料を選び、学習計画を立てることを通して、主体的に学ぶことができた。

〇生徒アンケートより

	課題発見・情報収集などの授業に参加した	課題に対して主体的に取り組めた
事前	66%	81%
事後	77%	88%

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事業

令和2年度事業
（大阪府）

課題

〇府内の小中学校ともに、不読率が全国平均を上回っている。
〇学校図書館の授業での活用が進んでいない。
〇言語能力の育成が必要。

事業のねらい

学校図書館を活用した授業を行うことで、言語能力の育成を図る。事業実施校には学校図書館活用に造詣のあるスーパーバイザーを派遣し、授業づくりや環境整備に向けた指導助言を行うとともに、事業実施校の取組を広く普及させ、府域の学校図書館の機能の充実をめざす。

取組実施地域・学校の指定

吹田市、茨木市、摂津市、大東市、交野市、東大阪市、八尾市、富田林市、藤井寺市、大阪狭山市、泉大津市、和泉市、高石市、泉佐野市、阪南市、熊取町
【１７市町】
小学校１４校　中学校７校

実施内容

【大阪府の取組】
〇事業実施校に担当教員を配置
〇事業実施校へスーパーバイザーを派遣
〇事業実施校への指導助言

【市町村の取組】
〇事業実施校の選定・成果普及計画等の設定
〇事業実施校の進捗管理及び訪問支援
〇事業実施校の公開授業及び校内研修支援

【事業実施校の取組】
〇言語能力の育成に向けた学校図書館を活用した授業実践
〇公開授業、校内研究の実施
〇学校図書館を活用した実践事例の作成

校内研究においてスーパーバイザーから助言を受け、公開授業で取組の成果を発信

【研究成果の周知】
〇フォーラム（オンデマンド形式）にて発信
〇事業実施校の取組を府教育庁ＨＰにＷＥＢアップ

事業実施校の実践を参考に学校図書館を活用した授業づくりを府域内へ普及・発信

成果

【児童生徒アンケート】

	令和2年7月(%)	令和3年3月(%)
授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。	78.8	83.7
相手にわかりやすく自分の考えを書いたり、話したりしている。	76.8	81.1
わからないことは自分で調べている。	75.0	75.7

【学校図書館活用授業実施数】
（単元の授業モデル、令和３年３月時点）
合計　小学校108事例　中学校71事例

〇学校図書館活用授業が普及し、教科横断的な授業や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた言語能力を育成する授業づくりが広がる。

参考：学校図書館を活用した授業実践例
（大阪府教育庁HP）
http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/gakkoutosyokan/index.html

「学校図書館の振興に向けた調査研究」委託事業

令和2年度事業
（和歌山県）

課題

〇本県は、へき地が多く、小規模校の割合は県全体の７割以上を占めている。教育上の諸問題、特に、少子化に伴う教育の平等性を保つことに対応できるよう、創意工夫が必要である。
〇各市町村において、学校司書の配置を進めていただいているが、十分な配置となっているところは少なく、人材不足を訴えるところもある。

事業のねらい

●学校図書館の効果的な利活用を研究することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る。
●学校司書の資質・能力の向上を図り、学校図書館の効果的な活用を促進する。

取組実施地域・学校の指定

日高川町美山地区４校

・川原河小学校　・笠松小学校
・寒川第一小学校　・美山中学校

２０１７年度より、テレビ会議システムを導入した３小学校による集合学習を実施している。

実施内容

①企画運営委員会を活用した研修の実施

年2回開催し、本調査研究の概要を周知するとともに、ICTと図書館を活用した実践事例や図書館を中心に情報活用能力を推進する学校の取組等について研修を実施した。

②学校図書館活用のための研修会の実施

コロナ禍の中、学校司書や司書教諭等を対象に研修会を実施することで、学校図書館に関わる教職員の資質能力の向上を図り、学校図書館の効果的な活用を促進した。

③県立紀南図書館の活用に係る研修会

和歌山県立紀南図書館の活用方法や学校教育で活用できる資料等を紹介することで、学校図書館だけでは不十分になりがちな図書の質と量の底上げを目指すとともに、活用の促進を図った。

④テレビ会議システムを活用した授業研究並びに講習会

３小学校でビブリオバトルを行い、ジャッジに中学生も参加。テレビ会議システムを活用した小中連携による集合学習を新たな形として確立することができた。

成果

〇学校図書館の取組の普及

より実践的な研修となるよう、情報カードの演習及び調べ学習で活用した図書の情報交換を行った。

情報カードの演習において、カードの取捨選択の仕方や、効果的な情報活用の方法等を体験することで、授業での活用を推進することができた。

また、学校図書館の取組事例を県のホームページに掲載し、取組の普及を図っている。

〇読書センターとしての役割の強化

主として３小学校で行われていた集合学習に中学校も参加することで、質の向上は図れた。小中連携のビブリオバトルの取組により、低・中学年の児童がビブリオバトルに意欲を見せ、図書への興味関心を高めることができた。

〇ICTを活用した取組の推進

美山３小学校では、毎週学年ごとにテレビ会議システムを活用した合同学習を行っている。その日々の積み重ねが、ICTを活用した授業を展開する上で欠かすことのできない要素であることを確認することができた。

ICTを活用した授業の流れや話し方・聞き方、カメラワーク等のスキルが児童・教員ともに身に付いていた。

令和２年度「学校図書館の振興に向けた調査研究」委託事業

令和2年度事業
（北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター）

～ へき地・小規模校の地域探究学習を柱とした学校図書館の活用と活性化に関する事業 ～

課題

○へき地・小規模校は、図書室の予算規模が小さい
○地域探求学習活動に必要な図書が充分ではない

事業のねらい

○地域探究学習としてどのような本が必要であるかをとらえる。
○学校図書館の活性化と地域の発展を繋げる。

取組実施地域・学校の指定

- 釧路町立昆布森小学校
  児童数　21名　4学級
- 釧路市立山花小中学校
  小　児童数　14名　3学級
  中　児童数　15名　2学級
- 北海道教育大学附属釧路小学校
  児童数　345名　12学級

実施内容

①他小学校図書室活用の調査・助言

幕別小学校図書室の活用方法について指導・助言を与えるとともに、公立図書館との連携のあり方について協議を実施。

②選書ツアーの実施

選書した本の一部

教育課程において地域探究学習活動にかかわる本を活用しながら、地域学習を客観的・科学的に進めることで、図書館を利用することの重要性に気づいてもらうと共に、必要な本を選書するプロセスを通じて本を選ぶことの重要性をとらえる事を念頭に選書ツアーを実施。

③北海道教育大学附属釧路小学校での選書ツアー

京都市の小学校とZoomを活用して意見交流

図書を活用した学習活動の他に、対象児童が学びの成果を遠くの地の小学生と交流したことによって広がった新たな視点やテーマについて役立つ図書を公共図書館の協力を得ながら選書した。

成果

学校図書館の活用がより活性化するために、各教科等の学習活動と学校図書館の関連を図ることができた。それにより、地域体験活動との効果的な関連を図り、教育課程に位置付け、児童の興味関心、思考の流れや発展を予想しながら蔵書を配架することができ、そして、それをコーディネートする教員や司書教諭、学校司書等により、児童が図書の活用の効果を実感し「させられる学習」から「したい学習」に転換していくことが可能となった。

○学校図書館における地域探究学習に関わる選書が進み、ふるさと学習の活性化が見られた。
○地域探究学習において、学校図書館利用率が高まった。
○図書館の利用率が高まることで、学校図書館も必要性が高まり活性化した。
○子ども達は学校図書館の利用の過程で、自分たちで調べる意識と習慣が定着した。

「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」委託事

令和2年度事業
（東京学芸大学）

課題・事業のねらい

〇学校司書のための研修プログラムについての企画・実施・検証

〇学校図書館を活用した授業実践
（研究指定校2校による授業実践）
研究指定校
・附属世田谷小学校
・附属大泉小学校
・附属世田谷中学校
・附属特別支援学校

〇Webサイトでの学校司書の資質・能力の向上に役立つ情報の発信

〇研究成果の公表

実施内容

司書研修等の実施（8月、9月、2月）
〇研修プログラムの評価指標の検討

研究指定校による授業実践
〇附属世田谷小学校
・学校図書館の関わりと情報処理能力の育成
〇附属大泉小学校
・情報活用の実践力の育成
〇附属世田谷中学校
・デジタルも含め、自分が必要とする資料にたどりつくための視点をもつことの提案
〇附属特別支援学校
・特別支援学校における「読む聞く発表する力」の育成

掲載

動画配信

Webサイト「学校図書館活用データベース」による情報発信

動画配信

事業報告会の開催（12月21日）
・上記3つの取組・実践を報告（参加者 約80名）

成果・課題

・学校司書の資質・向上に役立つ研修の実施。
・研修内容の検証→アンケート集計・分析の仕方の検討
（選択式と記述式を織り交ぜたアンケートの検討など）
・司書教諭・教科教諭・公共図書館司書等も対象となる研修の企画・実施

〇学校図書館のレファレンス機能の特性
〇学校図書館を活用した情報活用能力の育成
（課題）
・児童・生徒の学習動機をフォローしながら、情報を収集・活用し、学びを深められる実践の提案。
・デジタル資料も含めた情報活用能力を児童・生徒が身につけられる段階を踏んだ取組。

〇10年間による実践事例掲載の増加
23事例→350事例
〇年間アクセス数の増加
2012年度　　2020年度
70,487 件　→　205,710　件
（課題）
・授業実践事例のさらなる充実
・事例掲載の無い県への記事の依頼